

緊急 トップインタビュー

一般社団法人ワカック（仙台市）

代表理事 渡辺 一馬さん(42)

新型コロナへの対策と見直しを聞くシリーズ。今回は学都・仙台で若者と社会とをつなぐ活動をしている一般社団法人ワカック（仙台市）代表理事の渡辺一馬さん(42)です。

◇

一多くの若者に挑戦の機会を提供してきました。

宮城大1年の時加入した学生団体を、卒業した2001年に法人化し、大学生へのインターン（就業体験）の機会提供を軸に活動してきました。受け入れ企業を開拓したり、大学生に研修をしたり、交流の濃淡はあれ、起業20年で1万人以上と関わってきました。

一コロナの影響は。

大学生の貧困が深刻です。アルバイトが減り、直撃を受けています。近年は奨学金をもらう学生が増えています。アルバイトはかつて、遊ぶためでしたが、今は学費や生活費を賄うため。食べることにさえ困っ

学生の貧困救うため奔走



て心を病む若者もいます。

一対応は。

春先に知人の農家や企業のカンパを元手に1週間分の食料を無償提供すると呼び掛けました。するとすぐに予定の100人を超え、結果的に140人を支援しました。アンケートを採ると、9割が相談相手が「誰もいない」と回答。孤立も大きな課題と知りました。

一次の手は。

新型コロナウイルス

ともに
乗り越えよう

「休眠預金」を民間の公益活動に充てる制度の支援を得て、この秋、新しい取り組みを始めます。まずは来春まで大学生10人を時給900円の有給ボランティアとして雇用し、困っている学生の相談に乗る「ピアサポーター」として働いてもらいます。悩みを聞き、それを大学や協力企業など「大人」と共有しながら、改善・解決に導きます。企業には短時間・少人数でも学生を雇用してもらうなど、協力をお願いしたい。個人の協賛も大歓迎です。もちろん困っている学生も遠慮なく連絡をください。

information

活動概要が分かるワカックのサイトは、右のQRコードから。



企画・制作／河北新報社営業局